

ランチョンセミナー7

呼吸器感染症における 迅速核酸診断の期待と役割

日時

2024年2月10日(土) 12:20~13:20

会場

第7会場 (パシフィコ横浜ノース 4F「G401」)

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1丁目1-2



座長

大曲 貴夫 先生

国立国際医療研究センター病院 国際感染症センター長



演者1 (LS7-1)

**溶連菌を中心とした呼吸器感染症における
迅速核酸診断への期待**

加勢田 富士子 先生

長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 病態解析・診断学分野 助教/ 長崎大学病院 臨床検査科・検査部



演者2 (LS7-2)

**小児におけるRSウイルス核酸検査の
臨床応用と課題**

森岡 一朗 先生

日本大学医学部 小児科学系 小児科学分野 主任教授

本ランチョンセミナーは整理券制です。

配布場所:パシフィコ横浜ノース1階 <参加受付付近>

配布日時:2月10日(土)8:00~11:50(※無くなり次第、終了)

注意事項:

- 参加を希望されるセミナーの整理券をお取りいただき、セミナー入場時にお弁当とお引換えください。
- 整理券配布はお一人様1枚限り、先着順のうえ、無くなり次第、終了となります。
- 入場は整理券をお持ちの方を優先させていただきます。
- 整理券はセミナー開始5分後に無効となります。

共催:第35回日本臨床微生物学会総会・学術集会/アボット ダイアグノスティクス メディカル株式会社

©2024 Abbott. All rights reserved. ここで表示される全ての商標はAbbott、およびそのグループ会社が保有する商標です。表示されている画像はイメージです。
COL-23566-03 1/24

呼吸器感染症における迅速核酸診断の期待と役割

座長: 大曲 貴夫 先生 (国立国際医療研究センター病院国際感染症センター)

LS7-1

溶連菌を中心とした呼吸器感染症における迅速核酸診断への期待

加勢田 富士子^{1,2}, 柳原 克紀^{1,2}

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析・診断学分野¹, 長崎大学病院臨床検査科・検査部²

感染症診療において迅速な病原体の同定は、有効な抗微生物薬の速やかな投与、他者への伝播の予防(感染対策)、さらに不要な抗微生物薬の処方頻度の減少に有用である。迅速検査として広く用いられているのはイムノクロマトグラフィ法を原理とする抗原検査であるが、COVID-19流行により迅速核酸検査は一般的なものとなり、規模を問わず多くの病院、診療所に全自動迅速核酸検査機器が導入された。今後この機器をどのように活用していくかが臨床微生物学分野の大きな課題である。

このような中で2023年8月より15歳未満の患者を対象にA群β溶血性連鎖球菌迅速核酸検査が可能となった。日本感染症学会より2022年11月に示された「気道感染症の抗菌薬適正使用に関する提言(改訂版)」内でも、急性咽頭・扁桃炎診療アルゴリズムにおいて、溶連菌迅速抗原検査とともに迅速核酸検査が追記されている。本検査は従来の迅速抗原検査と比較し感度が高いため、既に本検査を導入されている米国では、検査結果が陰性であった場合、追加の咽頭培養による確認を必要とされていない。また咽頭扁桃炎患者に対して不要と考えられる抗菌薬投与量が減少したとの報告も認められている。

本講演では、新規に利用可能となった溶連菌迅速核酸検査をはじめ、呼吸器感染症における迅速核酸検査をポストコロナ時代に臨床現場でどのように使用していくのかを考える、一つの機会としたい。

LS7-2

小児におけるRSウイルス核酸検査の臨床応用と課題

森岡 一朗

日本大学医学部小児科学系小児科学分野

RSウイルスは代表的な小児の呼吸器感染症である。一般に、発熱、咳、鼻汁などの上気道炎を引き起こし、自然に軽快する。その一方、下気道疾患や脳症を発症し重症化する。小児領域において、患者数、重症度ともに疾病負荷の大きい感染症の1つである。そのため、2002年よりパリビズマブがわが国に導入され、重症化リスクの高い新生児・乳児・幼児に対して重症化抑制の効果をあげてきた。一方、近年はいくつかの臨床的課題が生じている。パリビズマブは、その年のRSウイルス流行初期に投与する薬剤であるが、その流行予測が困難になってきていること、パリビズマブ導入後の重症化(入院)する患者の特徴は重症化リスクのない健康な乳児であることである。また、特に、基礎疾患を有する児においては、パリビズマブで重症化抑制した期間が過ぎたあとの3歳以降になって重症化(入院)する症例が存在する(Morioka, et al., Medicine. 102 : 42, 2023)。

新型コロナウイルス感染症のパンデミック以降、高感度の核酸検査が使用可能となっている。その期待される臨床応用の一例として、RSウイルス感染症の小児患者を大学病院などの施設で入院治療する上で問題となるのが、院内感染である。大学病院では、血液腫瘍患者、免疫抑制患者などの感染を予防すべき多くの患者が入院している。入院時にRSウイルスを適切に診断し、高感度で検出できれば、入院時コホーティング、手指衛生の徹底をはかるなどを行い、院内感染対策に応用できる。本講演では、小児患者におけるRSウイルス迅速核酸検査の臨床応用と課題について議論したい。